

平成 26 年 9 月 1 日発行

有明ニュース

平成 26 年 9 月号 No20



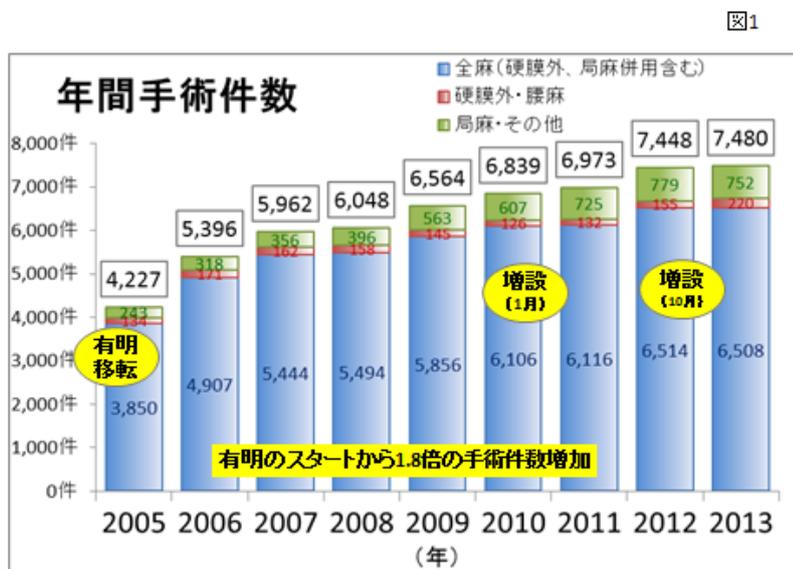
がん研有明病院



新しく手術室 4 室増設いたしました

手術部部長 川端 一嘉

大塚時代の癌研病院では、手術台 8 台で手術が行われていました。
2005 年の有明移転とともに手術室は 14 室でスタートいたしました。

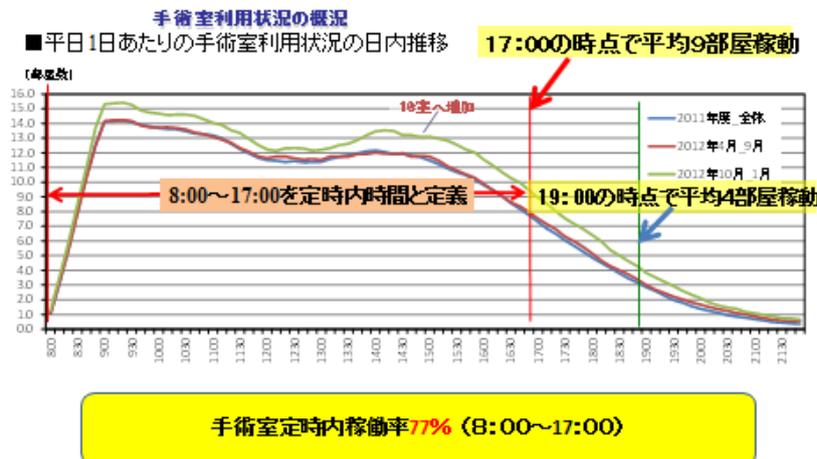


有明移転後の手術件数は図 1 に示されますように、年々著明な増加をたどり、2012 年には、年間 7000 件を超え、2013 年には、有明スタート時の 1.8 倍の件数となっています。がん研で治療の対象とされる疾患はできる限り早急な対応が必要とされる疾患であり、限られた手術室で、年々増加してゆく手術必要症例に対応するため手術部運営委員会では、科の枠を超えた全病院的な視点による検討が毎月行われ、より有効な手術室の運用を検討してきました。

これには、科別曜日別で手術枠稼働率を毎月作成し、より効率的な利用に向けて手術枠の見直しを半年毎におこない、利用率の低い科の枠を不足している科に変更することや、手術間の time loss の改善、手術開始時間の早期化などの対応などがあげられます。手術開始時間の早期化については、手術の 8 時スタートを開始し、各科の協力によって現在週に 24 件の 8 時開始が行われています。

手術室実態調査結果(2013年2月)

図2



しかし、これらの方法では増加する手術症例に対応しきれないため、2010年1月手術室が1室増設(第15室)され、さらに2012年10月に1室の増設(第16室)が行われそれなりの効果があげられてきました。それでも図2に示されるように、2013年2月の実態調査では、16室の手術室のうち17時に平均9部屋が稼働し、19時時点でも平均4室が使用され、長い時間外勤務が

務がさげられないことがわかります。また2013年を見ると、手術件数は16室で1日30件平均となり、1室あたりの手術件数は、1日平均1.9件となっています。長時間手術もある中で、1部屋平均が2件近いということは、同じ部屋で何件も、縦の時間割で手術を行わなければならないことが避けられないということです。

また、各科の手術までの待機期間が、多くの科で3週から6週くらいの間にあり、これらを総合すると、まだまだ手術室が不足していることがよくわかります。

これらのことより、必要に応じて適切な手術件数をカバーできること、そして過度の時間外勤務をなくすことを目標に、この度4室の手術室増設がおこなわれました。2014年7月31日に新手術室17室から20室までが完成しました。(第20室は局所麻酔中心の手術室として運用されます。)

この新規増設を記念して、8月7日木曜日に手術室の内覧会と、懇親会が予定され、大学病院、一般病院の医師や看護師等90人を超える方々が参加されました。手術室の見学、下部消化管内視鏡手術のライブ見学、ダヴィンチの見学、がん研手術室の現状説明などが行われました。

手術室の大きさや新しさ、時間外手術の縮減への取り組みに感心いたしましたとの感想を多くの方々より頂き、これまでがん研に患者さんをご紹介頂いたり、こちらからお願いしたりしてきた方々と改めて懇親の場を作ることができたという点で大変意義のある会であったと考えます。新規手術室は8月8日から稼働し、多くのがん患者さんの手術待日数の短縮と時間外手術の縮減による医師をはじめとした負担軽減が期待されます。

がん研有明病院手術室



世界一の緩和ケアセンター構築を目指して

緩和ケアセンター長 向山 雄人



がん診療連携拠点病院等の診療機能強化に向けた「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に関する厚生労働省局長通知(平成26年1月10日)として、平成28年3月までに、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟等を有機的に統合する「緩和ケアセンター」を整備し、組織上明確に位置づける事との通達に則り、当院においても各診療部門に分散していた部署を平成26年4月1日に中央診療部門に新設された「緩和ケアセンター」に機能を集結して活動を開始しました。

「緩和ケアセンター」は、緩和・がん疼痛治療部(緩和治療科、精神腫瘍科、がん疼痛治療科、緩和ケアチーム)、がん相談支援部(がん相談支援センター、がん相談、がん看護相談、WOC支援)、医療連携部(医療連携、退院支援)、診療情報管理室の4部門から構成されています(図1)。

図1は平成25年度の実績一覧ですが、平成17年に有明へ移転した以降、がんに伴う「身体的苦痛」、「精神的苦痛」、「社会的苦痛」、「スピリチュアルペイン」に対する早期からの緩和治療・ケアの診療体制は本邦をリードして来ました。今後も緩和ケアセンターとして包括することで各部署の横の繋がりを密にして、より質の高い緩和治療・ケアの提供に推進して行く所存でございます。



がん研有明病院 緩和ケアセンター

図1

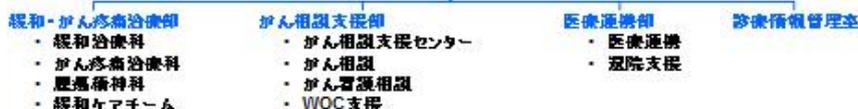


図2

2013年度の実績

緩和治療科病棟(PCU)

実患者数 288名(延7,731名)
平均在院日数 32.7日

緩和治療科外来(PCC)

実患者数 651名(延2,419名)
がん患者カウンセリング料算定111名

緩和ケアチーム(PCT)

・がん治療支援PCT: 実患者数 409名(延6,259名)
・リエゾンPCT: 実患者数 373名(延5,539名)

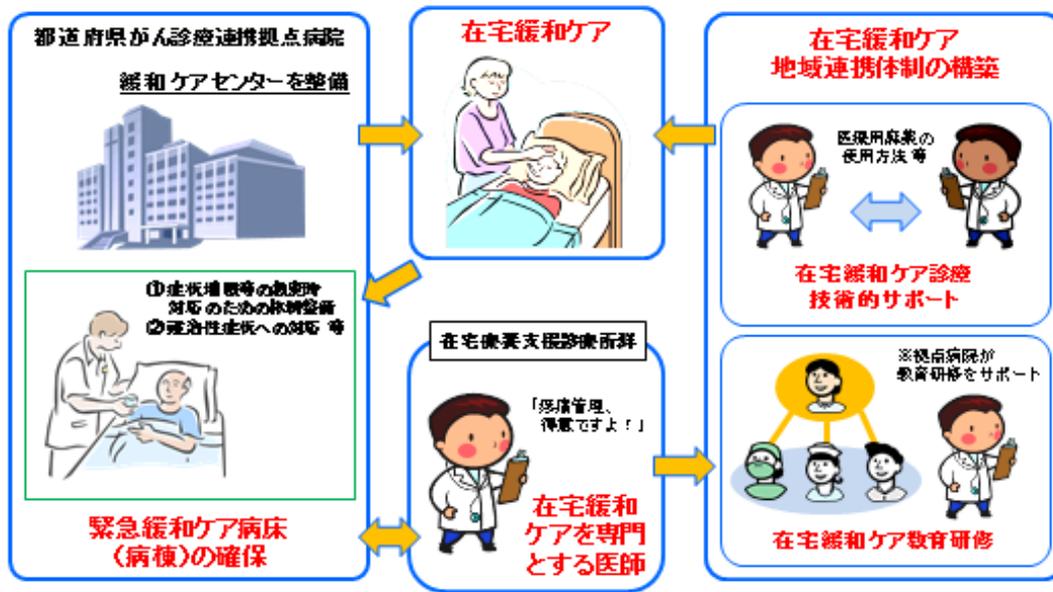
医療連携

退院・在宅療養支援 2,008名(延8,482名)

がん相談

院内913名(延1,664名) 院外1,249名(延1,249名)
がん看護相談 751名

病病・病診の推進



同時に今までも関連病院や診療所など、各医療機関に当院の患者さんが大変お世話になっておりますが、緩和ケアセンター設立を機に、さらにお互いの顔が見える良好な病病・病診

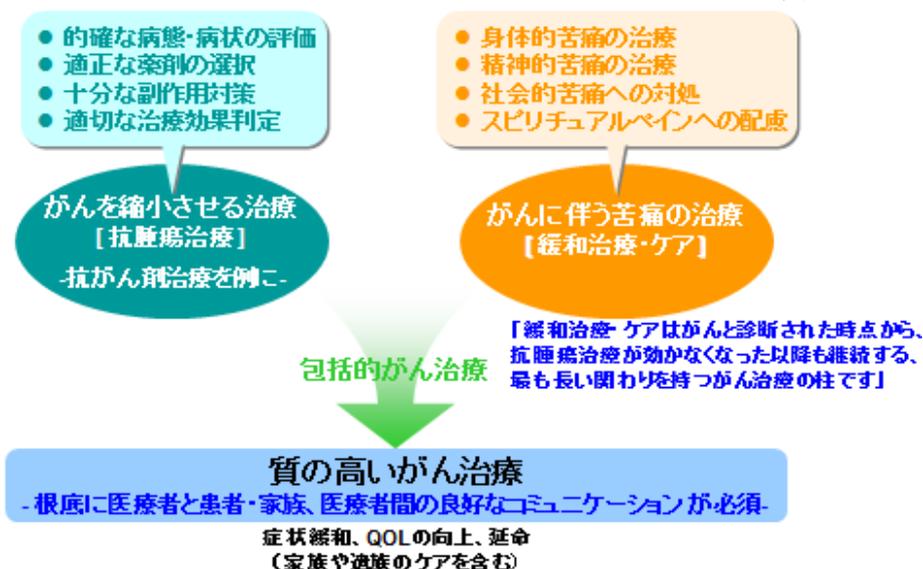
連携の推進を図りたいと願っております。特に今後の我が国のがん診療の将来を担うのは在宅緩和治療・ケアと言えましょう(図3)。

私は15年来、緩和治療・ケアは外科治療、放射線治療、抗がん剤治療と並ぶがん治療の柱の一つであり、がんと診断された時点から看取りまで、そしてご遺族のグリーフケア(悲嘆のケア)を含めると、一番長く患者さんとそのご家族に関わる柱であることを発信、実践して来ました(図4)。

がんと診断された時点から患者さんとご家族の心と体などの苦痛を和らげ、より豊かに生きることを支えるための治療、ケア、情報等を包括的に提供することが緩和ケアセンターの使命であり、世界一の緩和ケアセンターを目指して日々邁進しております。

緩和治療・ケアはがん治療の柱のひとつ

図4



これからも皆様のご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

緩和ケアセンター がん疼痛治療科の紹介

がん疼痛治療科 部長 服部 政治



2014年4月に緩和ケアセンターの中に「がん疼痛治療科」という新しい科が誕生しました。緩和医療の実践、病棟での疼痛管理、医療者の教育が3本の柱です。

一般的な鎮痛薬の使用以外に、ペインクリニック的な技術（脊髄鎮痛法や神経ブロック療法など）をがん患者さんに実践していくことを診療の主体としています。昨今、緩和医療の啓発に伴って多くの医師が専門性に関わらず緩和医療を実践するようになりました。その一方で、ペインクリニックで行う専門的な疼痛治療に依頼されることなく、痛みを十分にコントロールできないままの患者さんが多いのも事実です。当緩和ケアセンターでは、緩和治療科とコラボレーションしながら、患者の痛みや苦痛を取り除くために必要な専門的疼痛治療を、ひとりひとりの患者に合わせて行うことが可能となっています。

当科のもうひとつの柱は、緩和ケアチームとして全病棟に跨って行われる疼痛治療です。



毎日、主治医から依頼のあった患者の病棟を回診し、刻一刻と変化する痛みや身体症状を主科と共同で解決していきます。必要に応じてペインクリニック的治療を施し、がん治療自体の継続や在宅療養への移行の手助けをしています。そして、医療者の教育です。前述のように神経ブロックや脊髄鎮痛を実践する医師が日本に少ないのは大きな問題です。その重要性を広めるために、医療者への教育、技術指導を積極的に行っていきます。

緩和ケアセンターは、辛い痛みやあらゆる苦痛で苦しんでいる患者を、一人でも多く苦痛から解放するために専門的な分野を結集しました。その中のひとつが「がん疼痛治療科」になります。

江東区内の高校生ががんを学ぶ

～がんを知るがん研有明病院サマーセミナー～

7月31日（木）に江東区主催による「“がん”を知る！サマーセミナー」をがん研有明病院において開催いたしました。江東区内の高校に在籍している学生を対象としたもので、当日は14名の参加者がありました。

このセミナーの開催は今年で2回目になります。今や身近な病気であるがんに対して、

学ぶ機会の少ない学生に少しでもがんを知ってもらおうというのが目的です。



まず、冒頭に江東区長の山崎孝明氏より、参加の学生に対して激励があり、「この貴重な経験に挑戦してくれたことは、大変ありがたく、そして素晴らしいことだと思います。本日、自身で見たこと、聞いたことは必ずや良い経験になります。さらにこの経験をご友人や家族に伝えていただくメッセンジャーとしての使命を果たしてもらいたい。」とご挨拶をいただきました。

「学生に激励のお言葉を送る山崎江東区長」

続いて、門田守人病院長より、「がんを知る・がんとはどんなものか」、「がんを経験したら・或いはがんを経験しそうになったら」という2つのお話をDVDやスライドを用いて講演がありました。解りやすく丁寧な説明に学生は聴き入って、時折メモをとるなど、一生懸命がんの知識を習得しようとする姿が印象的でした。

つづいて、花出正美がん相談支援室看護師長より、看護の立場からチーム医療で取り組むがん診療の講演にて、がん研有明病院の看護師は、患者さんに対してどのようなチーム医療に取り組んでいるかを解りやすくイラストや写真を用いたスライドで、説明致しました。



緩和・がん疼痛治療部の服部政治部長より、医師の立場からチーム医療で取り組むがん医療の現状を説明いたしました。今回のセミナーの為に作成したがん研有明病院で働く多くの職種を紹介した映像で、本日のセミナーで、将来医療の現場で働くことを目指す学生が出てきてほしいと願いを込めて、メッセージを伝えました。

講演終了後、2班に分かれて、病院見学が行われました。普段は立ち入ることができない職員の作業スペース、

最前線の医療現場や病棟などの見学を行いました。

その後有明病院にて看護実習とがん研究所にて研究の実際を体験しました。看護実習では、実際に看護師さんが患者さんと接しているところを見学し、看護の実際を学びました。また、研究体験では、スライドを用いた最新の研究の説明を受け、普段研究者が行っているがん細胞組織を顕微鏡など用いて体験しました。



「山崎江東区長と門田病院長を囲んでの記念撮影」

半日と短時間でのセミナーでしたが、今回の目的の「がんを知り、がんに向きあう」ヒントを得られたのではないかと思います。また、この中から将来、医療に携わる学生が出てきてくれればと切に願います。

このようなセミナーにがん研究会は協力し、地域貢献に取り組んでまいります。(広報部)

ブラックジャックセミナー開催報告

去る、8月9日（土）に、当院吉田富三記念講堂・セミナー室にて、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)の共催、江東区の後援による、江東区の小学校5・6年生、中学生、計34名を対象に、ブラック・ジャックセミナーを開催いたしました。

当院で開催する、ブラック・ジャックセミナーは、今年で2回目であり、青少年が医師の仕事の実体験を通じて、医療への関心を高め、将来の進路を選定する際に一助となること、つまり、未来の医師（外科医）を目指してほしいということが目的です。

今回体験するセミナーは下記の6種類です。

(1) 縫合体験（基礎）、(2) 縫合体験（人工真皮）、(3) 救命救急体験、(4) 自動吻合器・縫合器体験、(5) 模擬手術体験（超音波メス）、(6) 鏡視下手術トレーニング

手術体験セミナーは6班に分かれて行われ、普段目にしたことの無い医療機器を前に、最初はみなさん緊張していましたが、職員の丁寧な指導のもと、徐々に雰囲気や操作にもなれ、楽しく体験をしていました。



「基礎縫合体験の様子（難しそうでした。）」



「鏡視下手術トレーニング体験の様子（真剣です。）」

体験終了後は、閉会式を執り行い、当院から修了証が送られました。

学生に今回の体験について、実際に話を聞いてみると「とても楽しかった」・「医師の仕事に興味をもった」・「外科医に将来なりたい」などの回答も聞かれ、この体験を基に、実際に外科医や医療従事者の道に将来進んでいただけることを願っております。

また、「医療の関心を高め、将来の進路を選定する一助になる」、今回のセミナーの目的にも大いに繋がった1日でもあったと思います。来年も開催したいと思います。（広報部）



お知らせ

グランドカンファランスのお知らせ

当院では、コメディカルも含めたMDT(multi-disciplinary team)meetingとして、毎月1回(原則第4火曜日 18:00~19:30)グランドカンファランスを行っています。
診断ー病理所見ー治療ー病理所見ー結果(予後)といった全体の流れを重視し、各診療科が輪番で症例を選択しています。
また、毎回会終了後にアンケートを実施し、出席者満足度などを調査し、常に改善を図っています。

外部施設の先生方にもご参加いただき、がん研有明病院の診療を第三者から評価してもらい、さらに連携を深める機会とさせていただきたいと考えております。
ぜひご参加ください(事前申込みは必要ありません)。

詳細は、当院ホームページ トップページの「お知らせ」をご覧ください。

医療連携課のご案内

医療連携課では、医療機関の先生方からご紹介をいただいた患者さんの診察・セカンドオピニオンの予約調整を行っております。また、経過報告書の管理、診察に関するご案内等を行っております。お問い合わせの窓口としてご信頼いただけますように、迅速・確実な対応を心がけてまいります。

ご紹介は、下記の電話・FAXでお申込みいただけます。(患者さん自身でお電話いただき予約することもできます。)

電話 : 03-3570-0506(医療機関様用)

03-3570-0541(患者様用)

FAX : 03-3570-0254

《編集後記》

当院はがんの専門病院ですが、来院される患者さんは、がんに加えて成人病疾病をお持ちの方も多くおられます。循環器疾患、糖尿病、脳疾患などお持ちの患者さんは当院だけで対応することが困難なことも多く、連携医療機関と協力して対応しております。ぜひ患者さんには、地域に「かかりつけ医」をもっていただくことを推奨し、機能分化や、安心な医療連携の確立をすすめていきたいと思っております。(石井)

公益財団法人 がん研究会有明病院

発行: 医療連携課

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31

TEL 03-3570-0253 FAX 03-3570-0286 (E-mail): renkei@jfcr.or.jp

ホームページアドレス: <http://www.jfcr.or.jp/>